



2023年度イスラーム信頼学 / 地域研究コンソーシアム 一般公開シンポジウム

これまで日本人は豊かな食生活を求めてきました。第二次世界大戦中・戦後の食糧難を経て、十分なカロリーと動物性タンパク質の確保が目指され、バブル期には美食が追求されて「飽食の時代」とも言われました。しかし今日、新自由主義経済の深化により、社会の経済的格差のみならず食をめぐる格差も拡大し、私たちは果たして「豊かな食」を獲得したのか、反省が迫られています。世界の国々も概ね同様に見えるものの、戦争や内戦は各所で続いており、飢餓状況が報告される地域すらあります。東アジアで想定されるような戦争が発生すれば、日本も（たとえ物理的破壊を免れても）たちどころに生存の危機に陥るような食の脆弱さの中にあります。いま、世界各地で「豊かな食」とは何なのか、という問

い直しが起こっているのです。食はまた一方で、さまざまな次元の「つながり」を前提とします。食糧・原材料の生産・流通はもちろん、調理や食事の仕方に至るまで、人と人の関係が前提となり、それを考えるには、農学、環境学、生物学、化学から、経済学、



イベントページはコチラから
<https://connectivity.aa-ken.jp/activity/1809/>

事前登録はコチラから
<https://docs.google.com/forms/d/1ypvtz2n0QhRlQZv7cdoER1pxRl0LJPRHdnjYm9SdU/>



会場に無料託児サービスあります
お子さま連れでおいでいただけます。事前登録フォームよりお申し込みください(10/31受付締切)

いま、地域から

「豊かな食」と

「つながり」を考える

2023
11/18
SAT
13:00~17:10

対面開催

【会場】
東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
3階303大会議室

- 【基調講演】
南アジア・ムスリムの食がつなぎ、育むもの
山根聡
- 【報告1】
海を渡る食材：
中世のイェメンとインド洋西海域
馬場多聞
- 【報告2】
ともに食べる：
福建南部の「僕ら」の清真寺(モスク)
における共食
砂井紫里
- 【報告3】
移民家族における食とジェンダー：
つながりとアイデンティティに着目して
工藤正子
- 【報告4】
食糧と戦争経済：
つながりと依存、自律性をめぐって
井堂有子
- 【コメンテータ】
大澤由実、南直人



政治学、歴史学、社会学、人類学、心理学、宗教学などのあらゆる分野の学が関係し、連携することが求められます。そして、その「つながり」は地球上の何らかの時間空間において展開することから、すぐれて地域研究的なテーマとなるのです。

参加型企画 食でつながる・食がつける のご案内

参加者各自のフィールドから話題を提供し合う展示をおこないます。是非、「食とつながり」に関する写真とキャプションをA4縦もしくは横1枚でお持ち寄りください。詳しくはイベントページをご覧ください。

Access



今回の、地域研究コンソーシアムと科研費学術変革領域研究「イスラーム信頼学」とが共同し、世界各地の食文化の多様性を楽しみつつ、食を通じた人々のつながりとその豊かさを再考する場を設けます。2022年中東・北アフリカのベスト・レストラン50に選ばれたレバノン人「食のコーディネーター」カマル・ムザウワク氏は次のように言います。「今日、他者を排除するアイデンティティではなく、他者を包み込むようなアイデンティティと伝統表現が求められています。どうぞいらっしやい！一緒にいかがですか？食ほど人を受け容れるものはないのです。」みなさまのご来場をお待ちしております。

お問合せ 「イスラーム信頼学」事務局
E-Mail : connectivity_jimukyoku@tufs.ac.jp

共催

□科研費・学術変革領域研究(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略的創造」(イスラーム信頼学)
□地域研究コンソーシアム □東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所